

# ソニー幼児教育支援プログラム 最優秀園 みなみ若葉こども園 実践発表会 開催レポート



◎日 時 : 2024年10月26日(土) 9:20~16:00

◎研究テーマ : 『みんなで繋ぐ笑顔の輪』～主体的な活動を通して育まれる科学する心の育ちと道筋～

<オリエンテーション> 9:20~9:30

・公開保育とグループセッションの「視点」(みなみ若葉こども園が考える科学する心の育ち)について、説明しました。

<公開保育> 9:30~11:30

～満1・1・2歳クラス～

大勢のお客さんに驚いてしまうことも予想していましたが、拍子抜けする程、いつも通りの姿をご覧いただくことができました。

わくわく広場(中庭)では、ぶら下がった風船をタッチしたり、逆さに広げたビニール傘にボールを投げ入れたりして身体を元気いっぱい動かして遊ぶ姿がありました。また、ドングリを転がしたり、藁を友達と投げ合ったり、朝顔の花を潰して色が出てくる様子を不思議そうに眺めたり、見て、触れて、嗅いで五感を働かせながら自然物と触れ合うなど、それぞれが安心できる環境のもと、興味・関心を広げ、繰り返し楽しみながら満足感を味わっていました。



傘を使ったボール投げ遊び



マットの裏に虫み～つけた!



藁の感触を全身で感じて



大好きな「だるまさんが」風船になっちゃった



バーベキューごっこ



懐中電灯を灯すと絵が光る☆

～満3・3・4・5歳クラス～

園庭、自然園、田んぼ、くみたて工場と自分のやりたいことをやりたい場所でじっくり楽しむ姿がありました。「砂を固めるにはどうしたらいいかな」「葉っぱで色水を作りたいな」「ドングリをゴールまで転がすにはどんなコースを作ろうかな」など、それぞれの目標のために試行錯誤しながら、試して、挑戦して、工夫をしていました。

室内では、自然物を使っての製作や3歳クラスは、実生活がみえるままごとなど、ごっこ遊びをなりきって楽しんでいました。



「くみたてこうじょう」の看板



ジュースやさん



手と足を使って絵の具で製作!



「泥スイーツ」を作っています☆



タブレットを持って田んぼで生き物探し！



自然園でクッキング



ドングリ迷路



お家ごっこ(お母さんは洗濯に大忙し！)



ザリガニ作りから、水の生き物釣りコーナーへ

<研究発表> 11:00~11:30

- ・中沢学園理事長より挨拶
- ・幼児部主幹保育教諭より、本園の考える科学する心とは、各年齢ごとの実践、そこから見えてきた育ちの道筋、本日までの取り組みなどを発表しました。
- ・大阪総合保育大学 瀧川光治先生より、午後のポスターセッションについて“幼児教育でやっていることが小学校にどうつながっているのか”“小学校教育はどのようなことを大切にしているのかを知る”という視点を持って見ましようとお話いただきました。



中澤理事長挨拶



立川研究代表による研究発表

<ポスターセッション> 12:20~12:50

午後の部からは、会場を会津若松市立小金井小学校体育館に移して開催しました。  
 ・教育実践論文で入賞された福島県の三河台小学校、明健小学校、福島大学附属小学校、川俣小学校の4校と幼保小つながるまなざし研究会の先生方がポスターセッションを行ないました。5つのブースに分かれ、質問が飛びかいたが、講師の先生も含め、皆さん熱心に発表に耳を傾けていました。実践発表会で小学校の先生に発表していただくことは初めての試みで、幼児教育が小学校にどのように繋がっていくのか、素晴らしい実践とともに幼保小連携の視点からも学ぶことができました。



ポスターセッションの様子～授業の道具や紙芝居など工夫を凝らした発表に、各ブースとも盛り上がっていました。

<開会式> 12:50~13:00

- ・来賓挨拶 室井照平会津若松市長
- ・主催者挨拶 根本章二ソニー教育財団会長



室井市長～公務の忙しい中、ご祝辞をいただきました。



根本会長挨拶

<本日の保育について> 13:00~13:30

・各学年の先生と大阪総合保育大学 瀧川光治先生が登壇し、本日の保育写真をスクリーンに映し出し、子どもがどんな遊びをしているところか、またその遊びや活動を通して科学する心の視点のどの項目に当てはまるか、インタビュー形式で進められました。子ども達が無気なくやっていることに意味付けをしていくと、たくさんの科学する心が溢れていることに気付かされました。また、1歳からすでに科学する心が始まっていることも分かりました。

<指導講評> 13:30~14:00 大阪総合保育大学 瀧川光治先生

・瀧川先生より、当園の科学する心の実践論文の変容を2021年からわかりやすく紹介してくださいました。「科学する心」について、『トキメキ（やってみたい！などの思いや心の動き）』『ヒラメキ（考える力）』という言葉を使って説明し、トキメキ、ヒラメキをどんどんバージョンアップさせていくことが大切とお話されました。

文部科学省の「やってみたいが学びの芽」の動画を視聴し、小学校の生活科は“子どもの思いや願い”から始まり、まさに幼児期と同じ“やってみたい（トキメキ）”からスタートしています。幼児教育者は子どもの気付きをどう受け止め小学校の学びにつなげていくか、小学校の低学年の先生は幼児期に培われたやってみたいという好奇心をつぶさないようにすることが大切だと、幼小の接続についてのお話もいただきました。



本日の保育の振り返り



瀧川光治先生



担任が遊びの読み取りを行ないました。

<グループセッション> 14:00~14:45

・12グループに分かれ、いろいろな園、小学校、大学の先生、大学生の方々と、科学する心の視点をもとに話し合いをしました。ファシリテーター役の先生を中心に、午前の公開保育で書いた付箋をグループごとの模造紙に貼り付け、マジックなどで自由に書き込みをしながら、それぞれのグループで考える『乳幼児期の科学する心』をまとめました。

お菓子やお茶を飲みながらの話し合いに、あちこちから笑い声が起ったり、熱心に語り合う姿が見られ、時間が足りないほどでした。いろいろな立場の方のお話を伺うことができ、大変貴重な場となりました。



熱心なグループセッションの様子



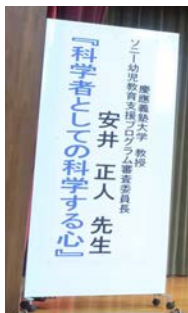
グループごとに模造紙にまとめました。

<記念講演> 14:55～15:50

『科学する心を考える』 慶應義塾大学教授/ソニー幼児教育支援プログラム審査委員長 安井正人先生

・科学者が考える科学する心のキーワードをお話いただきました。『好奇心×熱意（パッション）』が軸だと考え、ここから「集中力と粘り（諦めない）」が育つ。『遊び心と冒険心』も大事で、「殻（or常識）を破る」と、今までわからなかったことがわかるようになる。人が冒険しようとするために必要な条件として、“自分が認められている” “愛されている” という安心感を持つということである。『観察力×洞察力』は、幼児期の五感を使った体験が重要で、新たな発見へつながる。『環境』を活かすことが大事で、整いすぎてもダメ、何もないと人は諦めてしまう。ちょっと足りないくらい環境が良い。足りないと、子どもは、チャレンジをする、考え工夫をする。「工夫をする」というのは、科学する心の中で大事なことである。

最後に、「21世紀を生きる子どもたちへのメッセージ」として、いろいろな問題が起こっている中で、“生存力の強化” “地球運命共同体” という観点を持ってほしいといただきました。



安井正人先生の記念講演～世界でご活躍されている体験からのお話をいただきました。

<閉会式> 15:50～16:00

・御礼挨拶 みなみ若葉こども園園長

【参加者の方からのご感想】 ※一部を抜粋させていただいています

1. 公開保育や研究発表について

・第一に驚いたのが、環境構成の仕方でした。生活しやすいよう工夫がされていたり、子どもたちが自由に製作できる準備、場所の確保など大変勉強になりました。先生方の関わりも、子どもの目線に立ち、主体になれるよう見守っていたりととても素晴らしかったです。つつい、声を掛け教えてしまいがちでしたが、見守ることの大切さも改めて感じる事が出来ました。

・子どものいきいきと遊ぶ姿やそれを支える保育者のかかわりを見ることができ、大変勉強になりました。特に保育者の構えと環境構成です。先生方は子どものことをよく見て、子ども同士や子どもと対象を「つなぐ」働きをしたり、子どもがどうしたいかじっくりと「待つ」ことをしたり、そして子どもと一緒に遊び「共感」したりと、いろいろなかかわりがありました。小学校教員はつつい働きかけすぎる傾向にあります。子どものことをよく見て、かかわっていききたいと改めて感じました。環境構成は、写真などで活動を記録していくことで、子どもも保育者も共有できると感じました。

・継続的に研究を重ねていることで、今日の子どもの姿に繋がっているのだなと感じました。園全体で保育の振り返りをしたり、意識を合わせたりしながら、日々の保育をしていることも素晴らしいと思いました。

・公開保育では驚きの連続でした。逆に何ができないんだと思うくらいに様々なことが出来る環境。子どもたちも保育者も楽しめるだろうと思いました。一方でここまでの環境を作り上げるのも大変だったろうと感じました。

・子どもが行ったことに対して、一つ一つ認めつつ、「なぜ」「どうしてそう考えるの」というような子どもの思考を働かせるような言葉掛けをしていました。また、遊びが終わってからの振り返りの時間は非常に重要で、楽しんだことの価値付けがきちんとなされていました。決して誘導するわけではないものの、子どもの遊びをコーディネートし、探求へ誘い、学びに昇華していたと思います。園内外の設備が整っていることはもちろんのこと、実習田での活動や樹木も安全にも配慮しながら自然と触れ合うことができおり、豊かな経験ができていたと感じました。



## 2. ポスターセッションについて

- ・授業の仕方によって自らがやりたいことを考え行動する主体性が身につくのか、内容を科学的に学ぶことができるかの違いが出ており、それぞれの授業のメリットデメリットを視覚的に知ることが出来て面白かった。
- ・幼小の連携や、小学校での取り組みがわかりやすくまとめられ、とても良かったです。小学校での育ちのつながりがイメージできました。
- ・小学校でも子ども主体の教育を大切に、日々試行錯誤しながら授業をしている先生方の考えを発表を通して感じることができました。学童期も寄り添いその子なりに考える時間を見守ってもらえる安心感が学習への意欲にも繋がるのだと感じました。そんな先生のもとで小学校生活を送ることが出来ることはとても幸せだと思います。

## 3. 指導講評について

- ・1,2歳児のうちから、科学につながる遊びが含まれていることが分かり、環境構成を意識するとともに、子どもがどんなことに興味をもっているのか、観察することを大切にしていきたいと思いました。
- ・とても話が分かりやすかったです。保育を見つめる目、そして着眼点を教えて頂いたように思います。公開保育という短時間の中でいくつもの子ども達のトキメキが見られて良かったです。
- ・滝川先生の話聞き、幼稚園教育では学びに向かう力、人間性等に力を入れていることが小学校との違いだと気づかされました。小学校はどちらかと言えば、内容という知識・技能が身に付いているか。その時に思考・判断・表現ができていないかを見てしまいがちななと思いました。教育する上で人間を育てるという意味でも、学びに向かう力、人間性等にもっと目を向けた教育を考えていきたいと思いました。

## 4. グループセッションについて

- ・付箋に書いた子どもの姿や保育者の援助の様子を項目ごとに貼りながら行うことにより、同じような場面から読み取ったものや、自分が見ていない場面から読み取ったものなど様々なものがあり見て、聞いて、楽しむことができました。
- ・幼稚園や保育園の他にも、大学や小学校の方とのグループセッションだったので、色々なお話ができてとても勉強になったと思います。また、科学する心の育ちとはどういうことなのかを話し合い、今後の保育の中で色々と考えながら取り入れていきたいなと思いました。
- ・幼稚園教諭や保育士だけでなく、小学校の先生も参加していたグループセッションで、なかなかこのような機会がなかったので、様々な目線からの意見を聞くことができ、とても楽しく学びに繋がりました。幼児期に経験したことが小学校でも繋がっていて、上手く幼保小で連携を取るために何が必要かを知ることができ良かったです。

## 5. 記念講演について

- ・科学が果たす役割の大きさ、それを培っていくための観察力や洞察力につながる基盤を作る幼児期の大切さを改めて考えることができました。貴重なお話を聞くことができました。
- ・子どもの冒険心を養っていく為には、身近な大人から愛してもらっている、受け止められているという安心感を前提に持っておかなければいけない事を学びました。子どもが安心して、挑戦出来ると思えるような保育者でありたいと思いました。
- ・安井先生自身がとても好きなことを研究されてるんだなと感じました。そんな風になるにはどのような幼少期を過ごされたのか気になりました。大人も好奇心を大切に過ごしていけたらなと改めて感じました。
- ・遊び心と冒険心は、安心があると冒険しよう！と心が動かされ、チャレンジすることで社会性が生まれることなど、共感から頷いてばかりの講演会でした。安井先生のお言葉を思い出しながら保育していきたいと思いました。

## 6. その他

- ・こども園の先生方のこれまでの取り組みが本当に素晴らしいものだったからこそ、たくさん感動させていただきました。この実践をもっと多くの小学校の先生方に見ていただきたいと強く思います。
- ・幼稚園の全国大会で小学校の実践発表をすることは、大変意義のあることだと感じました。来年度以降、園小の全国大会で今回のような交流ができるといいなと思います。
- ・子どもたちの生き生きとした表情と先生方の素敵なかかわりが脳裏に焼き付き、帰りの車の中でも思い出しては、にっこりしていた私です。あんなに意欲にあふれた子どもたちが入学してくる小学校であることを再認識し、子どもの「やってみたい」が実現できる小学校、生活科をさらに充実させたいと改めて思いました。